

長島百合杏さんへ

御両親様へ

拝啓 未だ厳寒の候、ますます長島家様におかれましてはご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃当社のホームステーションらいふをご利用いただき、誠に有難うございます。さて先だって当社塩田よりお子様の百合杏さんの手紙を報告がありました。その感謝と改めての感慨を以下に申し述べさせていただきたく筆をとりました。お子様に読んでいただければ幸甚です。

百合杏さんへ

あなたの「ひいおばあちゃん」の作文を読ませていただきました。

おどろいたのは、小学校4年生とは思えないしっかりしたものの観方と考え方でした。

「人間が歳をとるということはどういうことなのか」

「人が高齢者になるとその家族はどのようになってゆくのか」

「人は歳を重ねるということは幸せなのだろうか」などいろんなことが百合杏さんの頭にうかんできたことがよくわかります。

わたしたちの仕事は、それはそれは大変なことが多いのです。「人が生きてゆく上でのすべてのこと、食べる、寝る、お風呂に入る、うんちやおしっこ
の始末や喜び、悲しみ、楽しみ、ふれ合い、苦しみ、さみしさ、痛み、不安など」人間のすべてを引き受けるということは大変むずかしいことなのです。

わたしたちは時には疲れたと言いたくなりますが、入居されている方々からの「ありがとう」の一言とか笑顔に救われたり、時には勉強（学校のような勉強ではなく、人の生活と人生のお世話をするための勉強です）の多さにため息をついたり、果てしがなくお手本がどこにもない仕事に呆然とたちすくんだりの毎日です。そして残念に思うのは、この仕事の本当の意味を理解している人が非常に少ないことです。

でも誰かが切り開いてゆく道です。

その誇りを持って私たちは仕事をしています。

そして百合杏さんのような考えの深い方の話を聞いたことは（作文のことです）「ああ 私たちの仕事のことをわかってくれる人たちが一人増えた」と本当に嬉しく思います。そしてそのことが、私たちに勇気を与えてくれるのです。深く、深く感謝いたします。

そして今まで以上にしっかり物事を見、そしてしっかり自分の頭で考えてみてください。

百合杏さんの
ご両親へ

ながながの文章をお読みいただき有難うございました。なかなか私たちの仕事をお伝えするのは、非常に難しいと常日頃思っております。

さて私たちは決して善意の人間たちではありません、また私たちは無限の寛容を持って仕事をしているわけでもありません。

ごく普通の職員が日々悪戦苦闘している老人ホームです。

事実失敗や不祥事は起きています。

そして人（私たち）が人（ご入居者の生活と人生）の全存在をお引き受けするという仕事はどこまで可能か、どこからが不可能か、しかもビジネスとして・・・という問いを 24 時間 365 日突き付けられている仕事でもあります。

事実非常に難しい仕事です。

しかしこれだけは言えます。

わたしたちはこの難しさから決して逃げていないということ。

この一点を胸にご入居者様の生きる力を引き出す介護をしてゆく所存です。

このことを皆様の眼で私たちの仕事をご注視いただければ、これに勝る幸甚はございません。

末尾ながらご両親、百合杏さんのますますのご多幸ご健康をお祈り申し上げます。

敬 具

2013. 2. 21

らいふグループ代表

吉田伸一